

**ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（ゲノム研究バイオバンク）**  
**令和7年度中間評価 評価コメント**

No.	評価課題名	補助事業 代表者名	所属機関	役職
000-001	利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	松田 浩一	東京大学	教授

**【評価コメント】**

疾患バイオバンクの運営に関し、臨床情報の更新、ゲノム・オミックスデータの拡充、利活用促進、双方向システムの実現等の計画の重要事項において順調に進捗している。また、ブレインバンク等のバイオバンクとの連携やフラッグシップ研究等、当初の計画を超える進捗があったことも評価できる。これまでの取り組みを継続・発展することにより、我が国においてバイオバンクを活用する機運が一層広がり、ひいては医療研究開発全般に貢献することを期待する。

一方、構築から20年余となり、オミックス技術の発展、ITやAI技術の進展など、計画当初には存在しなかった大きな変化が起こっていることから、さらなる利用発展のための計画も検討し、継続的なバンクの価値向上に取り組んでいただきたい。また、日本を代表する疾患バイオバンクとして、日本の研究コミュニティにバイオバンクへの理解を広め、ユーザーを増やしていくための教育機会づくり等、一層のリーダーシップを発揮していただきたい。

以上